

アース製薬、国立環境研究所との共同研究 入浴と暑熱順化に関する研究成果を 第91回日本温泉気候物理医学会にて発表予定

～産官連携で取り組む熱中症対策。日常的な入浴が体温調節機能に及ぼす影響を検証～

アース製薬株式会社（本社：東京都千代田区、社長：川端克宜、以下「アース製薬」）は、国立環境研究所（茨城県つくば市）と共同で、継続的な入浴習慣が暑熱順化（熱中症耐性）に及ぼす影響についての研究を継続してまいりました。

この度、本共同研究によって得られた知見を、2026年5月30日より開催される第91回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会にて発表することをお知らせいたします。

【共同研究の背景と目的】

近年の気候変動に伴い、夏季の熱中症対策は重要な公衆衛生上の課題となっています。

特に、身体が暑さに慣れていない春先や梅雨明けの熱中症リスク低減に向け、日常生活で実践可能な対策が求められています。

本研究は、入浴剤研究の知見を持つ当社と、環境生理学および気候変動適応研究において国内屈指の知見を有する国立環境研究所が連携し、日常的な入浴という熱負荷がヒトの体温調節機能に与える影響を科学的に検証することを目的としています。

【研究の概要】

本報告では、秋から冬にかけての気温低下に伴う生理反応の季節変動に着目し、継続的な入浴習慣の有無が、暑熱環境下での発汗反応や体温調節能にどのような影響を及ぼすかを比較検証いたしました。厳密に制御された環境下での介入試験を通じ、次シーズンに向けた暑熱順化プロセスの基盤となる生体データの収集・解析を行っております。

【今後の展望】

当社は本共同研究を通じ、科学的根拠に基づいた入浴習慣の提案を行うことで、熱中症リスクを抑えた安心な社会づくりに貢献してまいります。なお、本研究の具体的な解析結果については、学会当日における発表を予定しております。